

クラスター対策についての
分科会から政府への提言
令和2年10月29日（木）

新型コロナウイルス感染症対策分科会

1. はじめに

感染拡大の原因となるクラスターについては、これまで把握されているリスクの高い場における対応を継続していくとともに、これまでと異なる場が感染拡大の端緒となる可能性もあり、対象者の特性に応じた情報提供（特に、日本語以外の言語や生活習慣等の違いに配慮した情報提供等の取組）や地域の関係者を幅広く積極的に検査するなど大規模クラスターやクラスター連鎖が発生しないよう早期かつ適切な対応が求められる。

クラスター対策が遅れる理由としては、以下が考えられる。

1. 濃厚接触者の確認ができない（歓楽街等での発生）
2. クラスター対応の経験がない一部の病院や福祉施設での初動対応の遅れ
3. 探知が難しいクラスター感染の発生（例えば、若者・一部の外国人コミュニティ）

これらの課題に対処するため、分科会としては政府に対して以下のことを提言させて頂きたい。

2. 分科会からの提言

クラスター対策を向上させ、早期にクラスターを閉じるため、政府は、以下の事項に取り組んで頂きたい。

1. 大都市の歓楽街における感染拡大防止対策ワーキンググループの報告に基づく対応の推進（気軽に検査等について相談できる環境づくり等）
2. モニタリング体制の更なる強化
3. 今までに情報が届かなかった人への情報提供
4. 保健所・医療機関への支援
5. 地方自治体との連携によるクラスター対策のベストプラクティスの収集・共有